令和５年９月４日

保護者の皆さんへ

しらぎく幼稚園
園長　東海林　肇

園長だより「かけはし」

二園期が始まりました。夏休みに預かりに来ていた子もいましたが、久しぶりの登園の子どもが多く、「幼稚園、行きたくないなぁ・・・」と不安そうな表情で登園するのではと始業式の朝はドキドキしながら玄関に立っていると思います。でも、ほとんどの子どもが元気よく登園してくれるはずです。中には園長の顔を忘れずにいてくれ「園長先生、おはようございます！」と挨拶してくれる子もいてくれると元気に来てくれただけでうれしいのにさらに喜びも倍増します。そして幼稚園での活動や、友だちや先生に会えるのを楽しみにしてくれていれば何よりの喜びです。私たち教職員は、子どもたち一人一人の気持ちを丁寧に受け止め、二園期もたくさんの楽しい活動と学びができるよう支えていきたいと思います。保護者の方にはまたいろいろとご協力いただくことが多いと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

「敬老の日」

厚生労働省の調べによると、日本人の平均寿命は２０２２年の段階で、男性が 81 歳、女性が 87 歳で、高齢者に関する定義検討ワーキンググループからの提言では、高齢者の「若返り」について指摘し、65～74 歳を准高齢者、75～89 歳を高齢者、90 歳～を超高齢者と再定義することの意義を唱えています。実際、敬老の日が制定された１９６６年の平均寿命は男性６８歳、女性７３歳で現在とは１３，４歳の差があります。また６０歳以上の男女に意識調査をし、「自分が高齢者だと感じるか」という質問に対し、「いいえ」51.3%という結果になりました。ほかにも３０歳以上７０歳未満の人を対象に「高齢者というと、何歳くらい以上の人だと思いますか」と尋ねたところ、70 歳以上と答える方が多いという結果にもなりました。今、園児がお孫さんでいるおじいさん、おばあさんの年齢も５０代６０代の方が多いかと思います。ですから高齢者と言われてもピンと来ないかと思います。それでもおじいちゃん、おばあちゃんという立場としては、お孫さんたちの純粋な笑顔やお話は、最高の贈り物になっているはずです。今年は９月１８日が敬老の日にあたります。核家族化が進み、日常の生活ではお孫さんと一緒に過ごす機会が少なくなりがちです。もしかしてここ３年間、コロナ禍で会えなかったおじいちゃん、おばあちゃんもいたのではないでしょうか。遠方に住んでいて、普段会えないおじいちゃん、おばあちゃんもこの夏、久しぶりに会えた方はきっと喜んだことでしょうね。ライフスタイルはもちろん、長い老後を生き抜くための新たな働き方のスタイルを見直すのに必要な「人生 100 年時代」を迎えました。少子高齢化で、この先世の中はどう変わるのか、そして、自分も含め、どう生きていくかを考えていかなくてはならない敬老の日かなと思います。そして孫世代の子どもたちにはいつまでも元気で過ごしていってほしいと願っているはずです。